

特集

医療権力論 看護界・医療界はいま

医療権力論—看護界・医療界に何が起きたか 中木高夫

日本の質的看護研究における批判理論の可能性

—イデオロギー・アレルギーを乗り越えるために 谷津裕子

生体肝移植ドナーの語りにみる“健康体”という幻想 永田明

助産師の語りにみる“母乳育児推進”という権力装置 濱田真由美

小児気管支喘息における“大人になったら治る”という言説と子どもの体験

深谷基裕

“更年期”の言説に戸惑う女性たち 新田真弓

【連載】

混合研究法入門・3 抱井尚子

Journal Watch 海外の看護学研究から学ぶ・3 佐藤可奈ほか

USCF で看護研究を学ぶ・3 齋藤真希

編集後記

●前回、川口孝泰氏に企画いただいたのは2001年(34巻4号)。昔は「2001年」と聞いただけで、絵物語の未来を想像したものです。2001年以降、すなわち21世紀に入ってから科学技術の進歩のスピードはさらに増している気がします。スマホやタブレットの進化はもちろん、車のフロントガラスにカーナビを投影できたり、水道の蛇口に手をかざして横に滑らせるだけで水が出たり止まったり。特に後者は高齢者の方々にも有用ですね。今回の特集でも、そうした技術、特にICTの進歩がもたらす在宅医療の可能性を強く感じさせてくれます。進化のタネはまだまだ現場に落ちていることでしょう。イノベーションが、在宅医療の未来の鍵を握る時代かもしれない。ちなみに、最近ではカメラも、レンズをスマホに装着するだけで立派なカメラに早変わりする一体型のカメラや、撮影した後からでもピントを合わせられてしまうスグレモノまで登場しています。腕を磨く前に、目移りが絶えません。(小長谷)

看護研究 第48巻 第2号(通巻258号) 2015年4月15日発行(増刊号を含め年7回発行)

発行：株式会社医学書院 代表者 金原優 〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo ©2015, Printed in Japan

販売部(03)3817-5659 社内案内(03)3817-5600 医学書院ホームページ <http://www.igaku-shoin.co.jp>

『看護研究』編集室：(03)3817-5775 電子メールアドレス kanken@igaku-shoin.co.jp 担当／小長谷・早田

1部定価1,900円＋税

2015年年間購読料(税込、送料弊社負担、増刊号を含む年7冊)：冊子版13,025円 冊子＋電子版/個人

16,265円 冊子＋電子版/共有18,274円 電子版/個人13,025円 電子版/共有15,034円

〈学割年間購読料〉冊子版10,498円 冊子＋電子版/個人13,738円 電子版/個人10,498円

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

本誌を無断で複製する行為(複写、スキャン、デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的(診療、研究活動を含む)で上記の行為を行なうことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行なうことは違法となります。

【JCOPY】出版者著作権管理機構委託出版物

本誌の無断複製は著作権法上の例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969、FAX03-3513-6979、e-mail info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

●編集顧問(五十音順)

小島操子

聖隷クリストファー大学・教授(学長)

中島紀恵子

新潟県立看護大学・名誉教授

中西睦子

前国際医療福祉大学・教授

前原澄子

京都橘大学看護教育研修センター・所長

南 裕子

高知県立大学・学長

●編集協力者

阿曾洋子／荒川靖子

井部俊子／蝦名美智子

太田喜久子／岡谷恵子

片田範子／金井Pak 雅子

上泉和子／川口孝泰

河口てる子／川村佐和子

黒田裕子／高橋泰子

近田敬子／筒井真優美

水流聡子／野嶋佐由美

早川和生／舟島なをみ

村嶋幸代／森 恵美

安酸史子／山本あい子

横尾京子

看護研究バックナンバー

Vol.
48
No.
1
Jan
Feb

●特集 | 看護研究から政策をうみだすために

A Preamble to Shaping Health Policy through Nursing Research

Patricia A. Grady, Ada Sue Hinshaw 【翻訳】緒方泰子, 深堀浩樹

NINR とは何か?—その歴史と看護研究における役割 前田留美, 深堀浩樹, 丸光恵

政策につながる看護研究の動向と今後の展望—退院支援の研究を例に 坂井志麻

政策につながる看護研究の実践—少子化社会における妊娠・出産・子育てにかかわる政策に向けた研究
福島富士子

日本の看護系大学院における教育者・研究者の養成

—看護学教育者, 研究者養成につながる行政官の活動例 石橋みゆき

【インタビュー】看護学研究者に対する国会議員からの期待 石田昌宏 【聞き手】深堀浩樹

〈連載〉

混合研究法入門①[新連載] 混合研究法コミュニティの多様性 抱井尚子

Journal Watch 海外の看護学研究から学ぶ①[新連載] 連載開始にあたって—何を海外の看護学研究から学ぶのか 深堀浩樹
看護の価値を主張するためには 大山裕美子

UCSF で看護研究を学ぶ①[新連載] フルブライト留学までの道のり 齋藤真希

Vol.
47
No.
7
Nov
Dec

●特集 | 看護を語る 看護を創る

「実践を語ること」と「捉えなおされた実践を語ること」—訪問看護師の家族支援と地域包括支援セン
ター 3 職種の支援の 2 つの取り組みから 河原智江

集中治療室看護師の実践の意味 田代幸子

「うまくいかない」語りの意味—看護師が「難しい」と感じる障害児の家族とのかかわり 山本美智代

がん患者のエンド・オブ・ライフにおける認定看護師・専門看護師の看護実践の語り 福井里美

急性期病棟での緩和ケア—みなでやりきった実践の意味 守田美奈子

ケアと共感疲労—東日本大震災での救援体験をめぐる 2 人の看護師の語りから 小宮敬子

日常の看護場面においてはたらく「手」の現象学的考察—語り直すことからみえてくるもの 原澤純子

病院全体のバランスを見る—病棟看護師長の語りとその編成 西村ユミ, 前田泰樹

〈Scope〉

第 8 回 ICN INP/APNN カンファレンス報告—海外の Advanced Practice Nurse の動向

鈴木美穂, コリー紀代

〈連載〉

統計学のキー・ポイント—「検定」に焦点を当てて・6 [最終回] 対応のある場合の 2 グループの有意差検定 高木廣文
Words, words, words. 研究と言語—質的研究のために⑩ [最終回] 研究でやってはいけない 4 つのこと 江藤裕之

Vol.
47
No.
6
Sep
Oct

●特集 | 看護ケアプログラムの体系化に向けて—看護研究と行動分析学

看護ケアプログラムの開発—行動分析学の視点から 鎌倉やよい

「看護すること (nursing)」を支援する学としての行動分析学—随伴性のアレンジによる行動変容
坂上貴之

実験的研究法としてのシングルケースデザイン 石井 拓

臨床看護におけるシングルケース研究法の意義—先行研究の概観を通して 飛田伊都子

[研究 1] 心臓手術後リハビリテーションにおける運動の自律的調整

廣島香代子, 鎌倉やよい, 深田順子, 梶原智代美, 松浦昭雄

[研究 2] 保育園児への歌を用いた手洗い指導プログラムの効果

山内三帆, 鎌倉やよい, 深田順子

〈特別記事〉

オープン・アクセスジャーナルへの投稿時の注意点—学術雑誌からのダイレクトメールに潜む落とし穴

山川みやえ

〈連載〉

統計学のキー・ポイント—「検定」に焦点を当てて・5 割合についての検定 高木廣文

Words, words, words. 研究と言語—質的研究のために⑦ 批判的な態度 江藤裕之

